

bでいこう

～横浜市における取組～



横浜市環境創造局政策課 河合 太一

「ヨコハマ」のイメージ



みなとみらい21地区



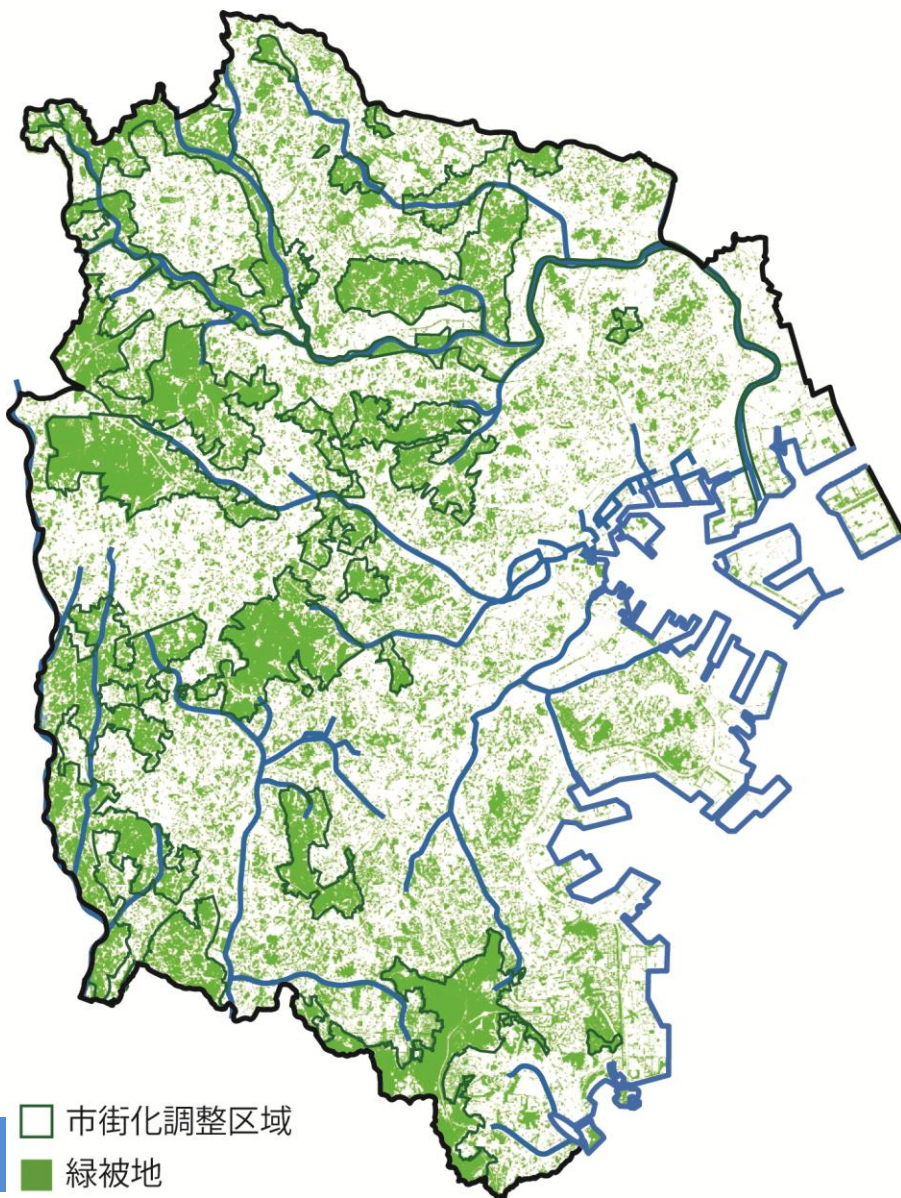
西洋館(バーリックホール)



この風景も大切な「ヨコハマ」



横浜の自然環境



■緑被率 約29.8%

- ・千葉市 約49%
- ・さいたま市 約48%
- ・名古屋市 約25%
- ・川崎市 約24%
- ・大阪市 約7%

(仙台市統計資料H20.3より)

- ・東京23区 約17%(平均値)
(台東区調査H23.3を基に集計)

■市街化調整区域 約24%

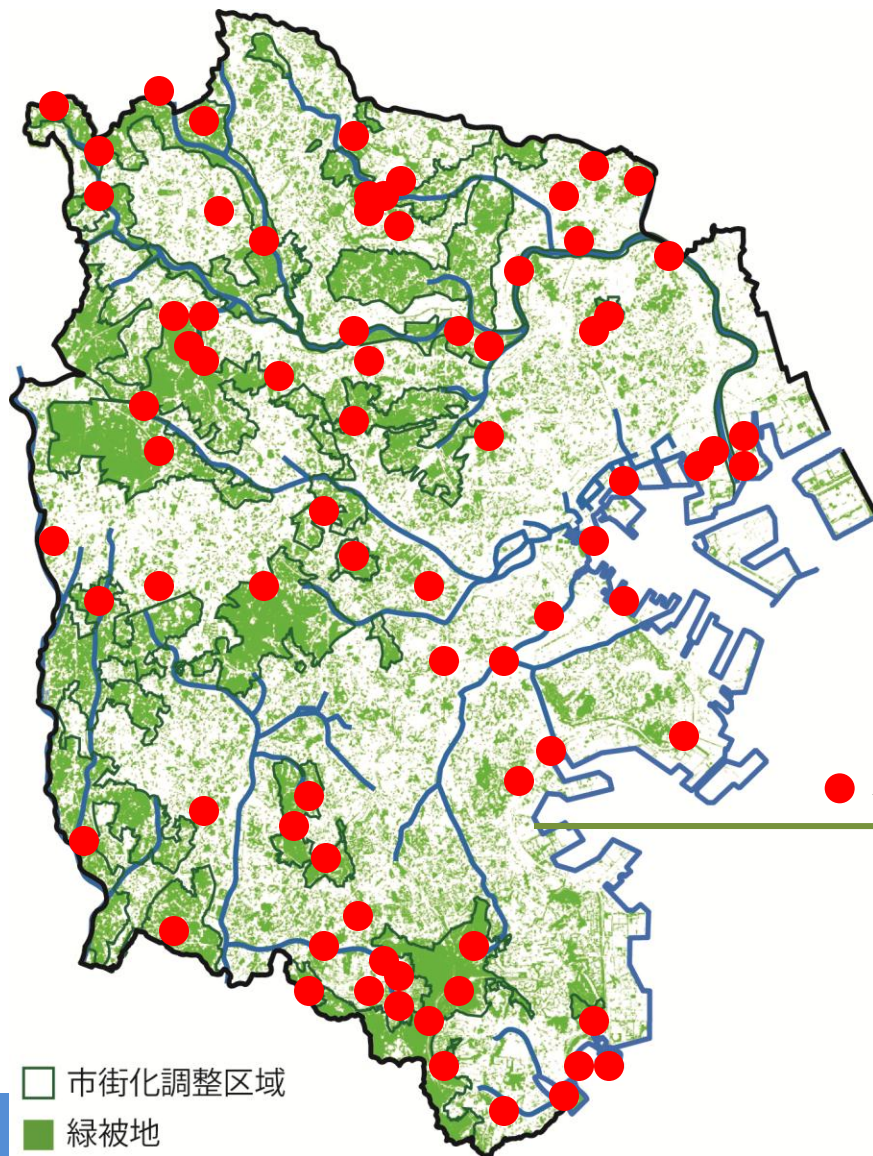
■市内を流れる9の河川 (市内で完結する6河川)



横浜の強み＝活発な市民活動



横浜の強み＝活発な市民活動



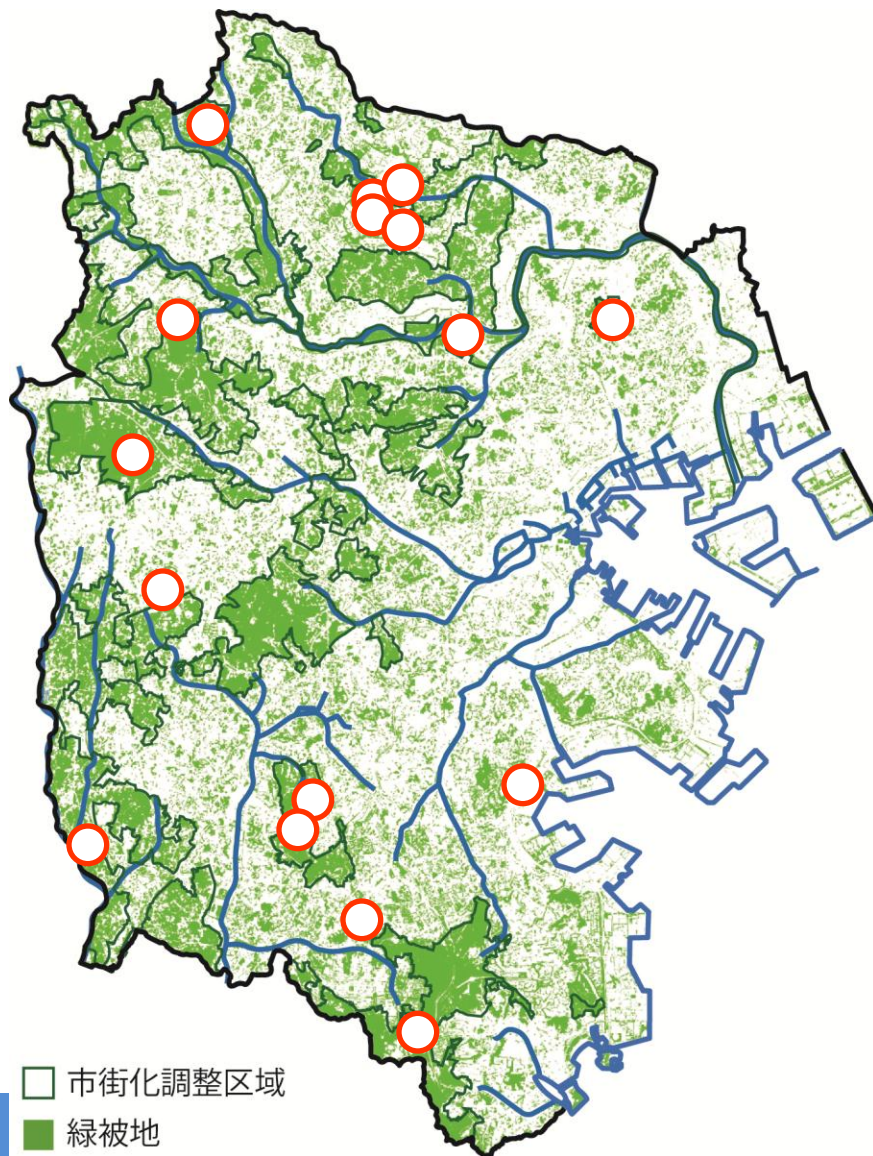
3, 800を超える 環境団体が活動中

- ・市民の森愛護会
- ・森づくりボランティア
- ・環境活動リスト登録団体
- ・公園愛護会
- ・水辺愛護会
- ・はまロードサポーター
- ・援農ボランティア
- ・緑化推進団体 などなど

● 横浜市内の主な活動拠点・フィールド



横浜の強み＝活発な市民活動



市民が支える 拠点施設

- 寺家ふるさと村四季の家
- 都筑民家園
- 都筑中央公園自然体験施設
- 茅ヶ崎公園自然生態園
- せせらぎ公園古民家
- 鶴見川流域センター
- みその公園横溝屋敷
- にいはる里山交流センター
- こども自然公園自然体験施設
- 長屋門公園
- 根岸なつかし公園
- 舞岡ふるさと村虹の家
- 舞岡公園小谷戸の里
- 天王森泉公園
- 本郷ふじやま公園
- 横浜自然観察の森



身近な自然と暮らしをつなげるために

ヨコハマbプラン (生物多様性横浜行動計画)

平成23年4月 策定



ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

b

ってなに？

= b i o d i v e r s i t y (生物多様性)



ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

位置づけ

生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略

計画期間

長期目標 2025年度まで

中期目標 2013年度まで

2025年の将来像

身近に自然や生きものを感じ、
楽しむことができる豊かな暮らし



ヨコハマbプランの構成

第1章 将来像

第2章 生物多様性の取組を進めていくために

3つの地区区分と2種類の拠点の考え方

第3章 重点推進施策 ～6つの重点アピール～

横断的取組を戦略的に推進

第4章 4つの取組方針と具体的取組

2013年度を目標とした75の具体的取組・事業

第5章 市役所の率先行動

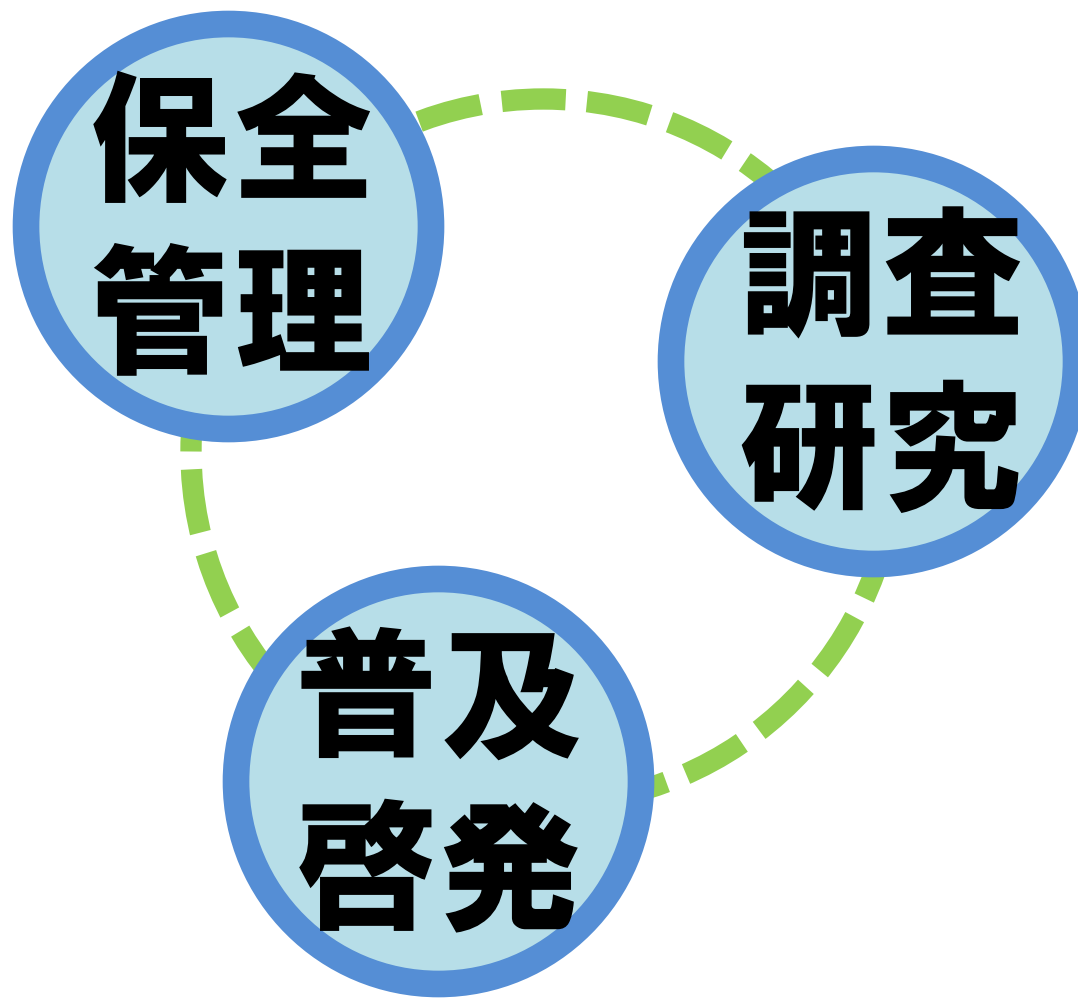
ISO14001への位置づけと「現場の知恵」の集約

第6章 bプラン活動単位版(仮称)

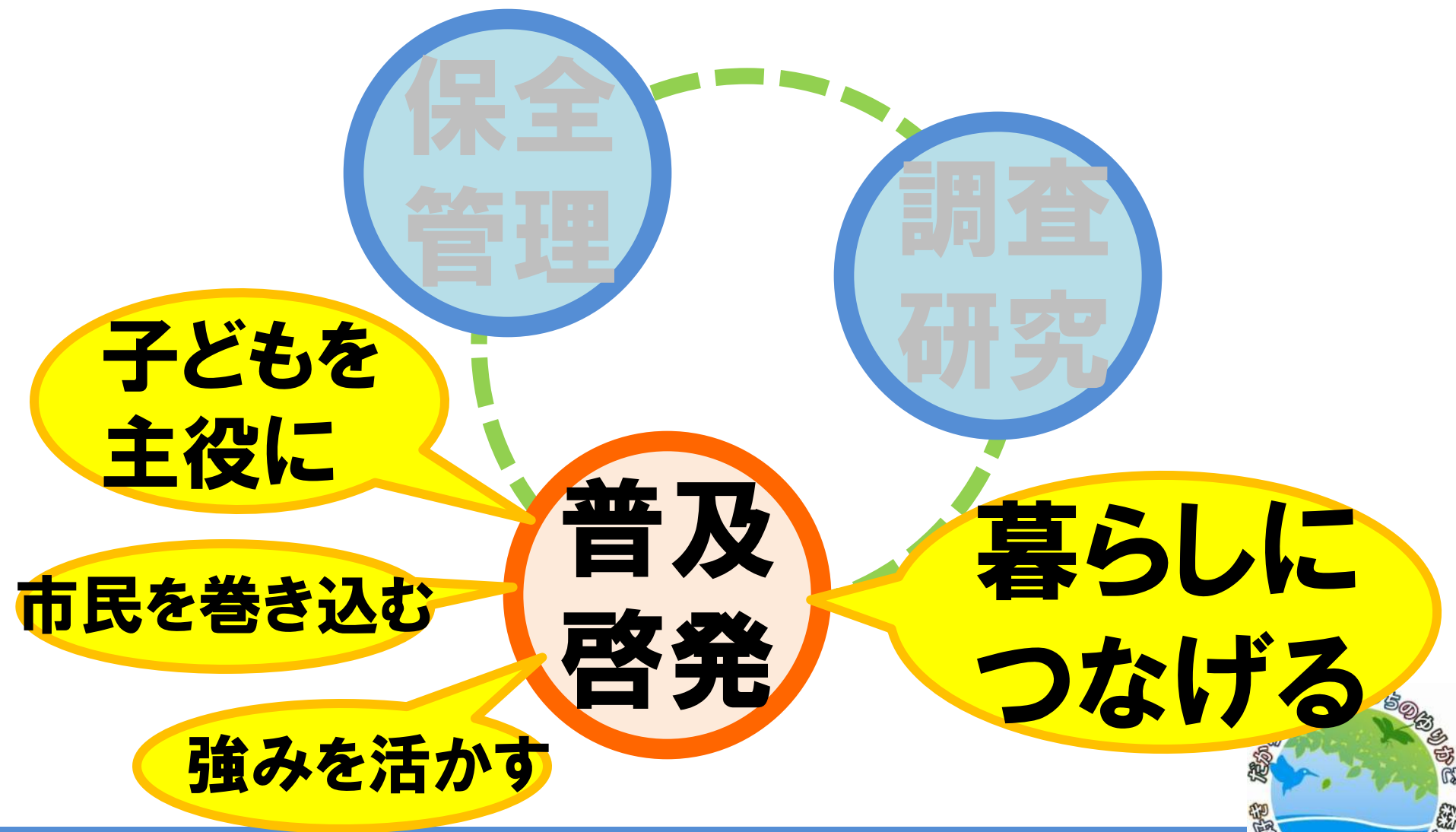
あらゆる主体が行動計画を策定



ヨコハマbプランの特徴



ヨコハマbプランの特徴



普及啓発(プロモーション)の取組①

環境教育出前講座 生物多様性でYES！ (Yokohama Eco School)

- 小学校や地域へ市民団体や企業、市職員が出前講座を実施。
- 講師は公募。23年度は21団体・7社。



普及啓発(プロモーション) ②

活動助成事業

- トンボ池づくりや外来生物の駆除など、生物多様性を高める活動
- 体験イベントやパネル展示など、生物多様性への理解を深めるための情報発信
- 子どもたちの参加の機会を設けていること
- 1件10万円以下。随時受け付け。



普及啓発(プロモーション) ③

環境活動賞

- 平成5年度に創設され、今年度で20回目となる、環境保全活動に対する表彰制度
- 市民(団体・個人)、企業、児童・生徒・学生の3分野。
- これまで延235の団体・個人が受賞
- 第19回から「生物多様性特別賞」を創設。



普及啓発(プロモーション) ④

ヨコハマbディ

- 活動を共有するためのイベント。講演や発表、ワークショップなど。
- 事例発表は市民団体だけでなく、学校や企業も。
- メディアを積極的に活用(ラジオ番組との連動、USTREAMでの中継、Skypeによる現地レポートなど)
- CEPAジャパンとの共催



普及啓発(プロモーション) ⑤

市役所率先行動

■ISO14001に位置づけ。各区局の環境行動目標に「地球温暖化」「ごみ減量」に並び「生物多様性」も設定

■「bなお仕事」シリーズ

- ・職員研修
- ・ニュース発行(庁内LANで)



職員研修



職員研修



まとめ 地域の魅力を最大限に活かす



ご清聴ありがとうございました。

